

「田代の郷温泉管理運営経費」議事録

委員：大石副委員長、村田委員、伊藤委員、
樽林委員、森委員、大池委員

所管課：三浦課長、大久保課長補佐、(書記)杉本主査

発言者	内容
三浦課長	(資料に基づき説明)
	～質疑応答～
森委員	田代の郷温泉の事業仕分けは、温泉(源泉)が安定して出ているかがポイントになる。過去に揚湯ポンプがストップした頃の揚湯量や水位に係る資料の事前提示を求めたが、記録なしとの回答であった。本当に平成23年4月以前の資料はないということによいのか。
三浦課長	日々の記録はホワイトボードに記載していたが、日々更新して記載していくため、過去のもの消しながら管理していた。
森委員	本当にそうなのか?とても信じられない。もしそれが本当であるなら、「まともな管理が行われてこなかった」と判断するしかないが、それでよいのか。
三浦課長	資料がない以上、そうとられても仕方がない。
森委員	資料中の事業費に係る市民一人あたりの負担額が1,505円となっており非常に高い。これには入場料や飲食・物品売上等が含まれており、実際の税金投入分の負担額に修正されたい。
三浦課長	資料中の財源内訳のその他:92,146千円の内訳は、入館料・行政財産使用料・施設使用料等である。このため、入湯税を含めるとほぼ市民の持ち出しはない計算になる。
森委員	行政財産使用料の内訳は?レストラン、リラクゼーション、売店は委託しているのか?
三浦課長	行政財産使用料の主なものとして、レストランくつろぎの売上から10%、リラクゼーションK o u m e のリラクゼーションの売上20%と商品の売上から5%、お土産物の売店の売上から5%をもらっている。
森委員	施設管理委託料が30,000千円近くあるが、管理しているスタッフの人件費等が含まれているのか?
大久保課長補佐	委託料として支払っているものであるが、その委託料には、委託業務に関わる必要なスタッフの人件費等も含まれてる。昨年からはフロント業務も委託している。
森委員	工事請負費の17,000千円は具体的にはどのようなものか?
三浦課長	ほぼ受水槽の増設にかかった費用である。
大石副委員長	先ほど出た施設の管理業務はどこへ委託しているのか?
大久保補佐	株式会社ユアーズ静岡に委託している。
伊藤委員	人件費で、正規職員3名の主な業務はどのようなものがあるのか?
三浦課長	主には委託していない業務を担当している。具体的には、源泉管理に係る業務や各委託業者への指示や管理調整、また市観光課との連絡調整等である。事務所に勤務している市職員は全4名であるが、そのうち一人は川根温泉を担当しているため、田代の郷温泉については正規職員3名と記載した。

発言者	内容
樽林委員	毎分の湧出量が掘削した頃よりは減ってきているようだが、ここ最近では源泉の水位は安定してきているようで、今後も安定し続けることを祈っている。 田代の郷温泉の源泉は、どこか別の施設等へ提供しているのか？
三浦課長	行っていない。
樽林委員	2種類の源泉を使用する場合、源泉毎に泉質表示が必要である。
発言委員未確認	知り合いで、現在の田代の郷温泉は、田代の源泉と川根の源泉の2種類が楽しめてよいという声をきく。
三浦課長	そのような声も承知はしているが、川根の源泉は非常に泉質が強いため、設備関係にダメージを与えてしまっているのが現状である。 また、満天の湯と森林の湯の脱衣所及び貸切風呂に、田代と川根の温泉分析書を掲示している。
森委員	川根の湯の輸送を中止するのは、温泉ホテルが出来て湯が不足するからではないのか？
三浦課長	川根からの輸送を中止する理由は、泉質の違いによる設備ダメージである。 田代の設備は田代の泉質に合わせて設計された。川根の源泉は非常に泉質が強いため、設備関係にダメージを与えてしまっているのが現状である。
森委員	川根の泉質はそれほど強いのか。既に4年間の使用実績があるが。
三浦課長	設備関係のダメージが大きく、致命的なダメージが生じる前に取りやめたいと考えております。前から早く中止したいと考えていた。
大池委員	なぜ、過去に水位が下がったのか原因は判明しているのか？
三浦課長	はっきりわかっていない。
森委員	水位が回復した大きな要因は、揚湯時間を減らしたためではないか？
三浦課長	それが最大の取り組みのひとつである。
大石副委員長	昨年度は揚湯ポンプ入替という大きな工事があったが、そのような大きな工事や修繕がなければ黒字で運営できるのか？
三浦課長	平成25年度を例に、事業費ベースでみれば、125,438千円のうち、入館料・使用料・施設使用料等の収入が92,146千円であるので、差引(一般財源からの持ち出し)33,292千円になるため、大きな工事や修繕等がなければほぼペイできると言える。
森委員	本年度工事費の中にナノバブルの改修工事費が含まれているが、これを実施し、川根の源泉を運搬していた時と比較し、同じくらいの入館者を見込んでいるのか？
三浦課長	ナノバブル湯は非常に評判が良く、そうなると考えている。
大池委員	ナノバブルが人気があるので導入を決めたということだが、炭酸泉の方が人気が高くニーズがあるのではないか？
三浦課長	田代の郷温泉の浴槽の構成は、「田代の源泉」「川根の源泉」「炭酸泉」と大きく3種類を提供してきた。今後も同様に3種類を提供したいと考え、既にある炭酸泉とはちがう「ナノバブル」の導入をすることとした。
森委員	炭酸泉の維持経費はどのくらいか？
三浦課長	年間140万である。

発言者	内容
森委員	平成28年4月から指定管理制度を導入するとのことであるが、指定管理者に名乗りを上げるところはありそうなのか？
三浦課長	年間来館者数20万人を超える優良施設なので、指定管理をしたいところはあると思う。
森委員	水位の安定を見届けていたため、指定管理への移行は平成28年4月からとなったとのことだが、平成22年5月に-390mだった水位が平成23年夏頃から最近までほぼ変わらない数値で推移しているのだからもっと早く踏み切れたのではないのか？
三浦課長	川根温泉を運んでいるうちは、水位が安定するまで見守っていたとしか言いようがない。
大石副委員長	本年度、ナノバブルの工事を実施するのですね？
三浦課長	実施します。
村田委員	ナノバブル導入後、田代の郷温泉の源泉が揚湯できなくなった時は、川根温泉の源泉を運搬するのか？
三浦課長	現時点で、揚湯できなくなることは考えたくない。仮にそうなったとしても川根温泉の源泉は運搬しないと思う。
森委員	過剰に田代の温泉をくみ上げていたのではないのか？
三浦課長	開館当初の揚湯について補足させていただく。 開館当初の揚湯については、県の許可に基づいて行っていた。毎分あたりの湧出量に対して約7割程度に設定して揚湯を行っていた。
森委員	質問の趣旨は、温泉の本来の能力を超えて過剰に温泉をくみ上げていたのではないかということで、（許可量をこえて）違法に汲み上げたということではない。 記録が喪失しており断片データしかないが水位低下し始めたH22. 1、2月は月間1700 t程度。その後、月間400 t 台に減らしたら、水位が回復・安定している。 1/3以下であるが、この量が安定供給量と考えるのが自然ではないのか？
三浦課長	平成21年4月の開業当初から水位低下し始めた12月までは、当初の揚湯計画どおり温泉をくみ上げていたので、決して過剰に揚湯していたわけではありません。
樽林委員	収容人数のMAXはどのくらいか？
大久保補佐	来館者数の現状は、平日が約400～500人程度、土曜日が700人程度、日曜日が1000～1300人程度である。GWやお盆などの一番多い時で1500人弱/日の時は、浴室内や休憩室などがほぼ満員で館内が非常に混雑する。
樽林委員	指定管理になった場合、これだけの入館者数があれば受けた事業者もやっていけると思う。
大久保補佐	市で管理している間はこの状況を維持していきながら指定管理者へ引継ぎたい。
大石副委員長	健康増進事業の講師はどのような人たちか。また対象者（参加者）はどういう人たちか？
大久保補佐	健康相談については、保健師、管理栄養士を嘱託員として雇用し、田代の郷温泉で人件費を支出している。また、対象者は全ての入館者なので、市外の方も含まれる。
森委員	過去の記録や資料がないことに対して何らかの処分等は行ったのか？

発言者	内容
三浦課長	特にない。今後も考えていない。
大石副委員長	田代の郷温泉内に近隣施設の情報がないと感じるがどうか？
大久保補佐	市内の施設に係るパンレットは置いているつもりであるが、もう少し内容を充実させ、置くように検討する。
大石副委員長	アクセスや案内図などの拡充を検討してもらいたい。
三浦課長	今後検討する。
森委員	田代の郷温泉の掘削から施設建設までにかかった総費用はどのくらいか？
三浦課長	温泉掘削にかかった費用が約1.5億、施設建設にかかった費用が約12億で合計約13.5億程度。
大石副委員長	満天の湯の炭酸泉はもともと何湯だったのか？
大久保補佐	「変わり湯」として営業してきたが、平成23年度に炭酸泉装置を導入した。
	～委員による仕分け～
	・不要 0人
	・民間、NPO地域団体が実施 0人
	・国、県が実施 0人
	・市が実施、但し改善が必要 6人
	・市が実施 0人
大石副委員長	委員の挙手の結果、当班による田代の郷温泉管理運営経費の仕分け結果については、「市が実施、但し改善が必要」とします。
	～全委員から講評～
森委員	管理体制に改善が必要である。
樽林委員	平成28年度の指定管理に向けて今後準備を進めて行ってほしい。
村田委員	ナノバブルを導入することが温泉運営にどのように影響するか心配である。
大池委員	立地が孤立しているので、他の観光施設等へのアクセスの改善・向上を検討してほしい。
伊藤委員	収支の改善が必要。人件費を踏まえればやはり赤字である。指定管理へ移行するまでの間にできる限り改善できるよう努力が必要である。
大石副委員長	やはり収支の改善が必要である。ロケーションはとてもよい施設なので、アクセス等の改善がされれば更に来館者増えることが望まれる。ただし、温泉運営はただ人がくればよいというものではない。土日祝は現状のままでも多くの来館者があるので、平日の来館者をもう少し増やすよう工夫してほしい。